

秋のにぎわいフェアの報告

令和3年11月23日(火・祝)、鶴巻温泉駅南口と北口の広場を会場に「自慢の味・人・土産を発見！秋のにぎわいフェア」が開催され、秦野市役所からの協力依頼を受けて参加した。昨年は、各イベントは新型コロナの影響で中止。野生動物救護の会としては、イベントの参加は2年ぶり。このフェアは鶴巻温泉エリアのにぎわい創出を図るため、登山客やハイカーなどの観光客が多く訪れる秋の紅葉シーズンに、鶴巻温泉エリアの魅力を発信するために企画された。会場にはパフォーマンス ステージ・各種模擬店・ジビエ料理ブース・日向石啓発ブース・秦野市ブース（鳥獣ふれあいコーナー・野生動物救護の会ブース）などが設けられた。

野生動物救護の会ブースでは、「人為的原因で傷ついた野生動物」について関心と理解を持ってもらうことを目的にパネル展示をおこなった。エデュケーションボードとして参加した小さくて可愛いオオコノハズクは、お子さんに大人気。家族連れを中心にたくさんの方が、ブースに立ち寄って下さった。スタッフは人為的原因（犬や猫に襲われたり、交通事故やガラス衝突、釣糸・釣針など）で傷ついた野生動物たちを減らすには、みんなが少しでも気を付ければよいことをパネルで説明した。また、私たちの周りにはどんな野生動物がいるか知ってもらうためにセンサーカメラで撮った動画をブース内に置いたテレビに流した。これはイベントでははじめての試み。

ジビエ料理ブースでは、他では味わえない趣向を凝らしたジビエ料理を振舞っていた。鶴巻エリアでは「ジビエの街」と銘打ち、ジビエ料理の推進を行っている。ジビエ料理は、単に野生動物を食べるという意味ではなく、そこには、人間と野生動物との共存があり、豊かな日本の農村や自然環境を守ることを目的とした取り組み、つまり鳥獣被害対策も含まれていると言われている。

鳥獣ふれあいコーナーでは、秦野市に生息する野生動物を知ってもらおうと、その剥製と頭骨標本が置かれ自由にさわれるようになっていた。このコーナーの目的は鳥獣被害対策の啓発。近年、鳥獣により人間の生活環境の被害（農林業被害、騒音や家屋侵入など）が大変深刻な状況となっている。そこで人と鳥獣が共存するための鳥獣との関わり方を知ってもらう為に資料を配っていた。

このフェアは、「人間と野生動物との共存の在り方」についても考えさせるものでもあった。このフェアが、野生動物に興味・関心のない方も少しでも「人間と野生動物との共存の在り方」について関心と理解を持つきっかけになればいいなと思います。（小野茂生）

野生動物救護の会ブース



全 景（屋外で風通しも良くコロナ感染予防対策がとられていた）



人気のオオコノハズクのコノハちゃん！



スタッフによるパネル説明の様子

